

# みまぼく 私の逸品 桂米之助アーカイブ

受入年 2000年

民博情報サーブイス課

高橋安司

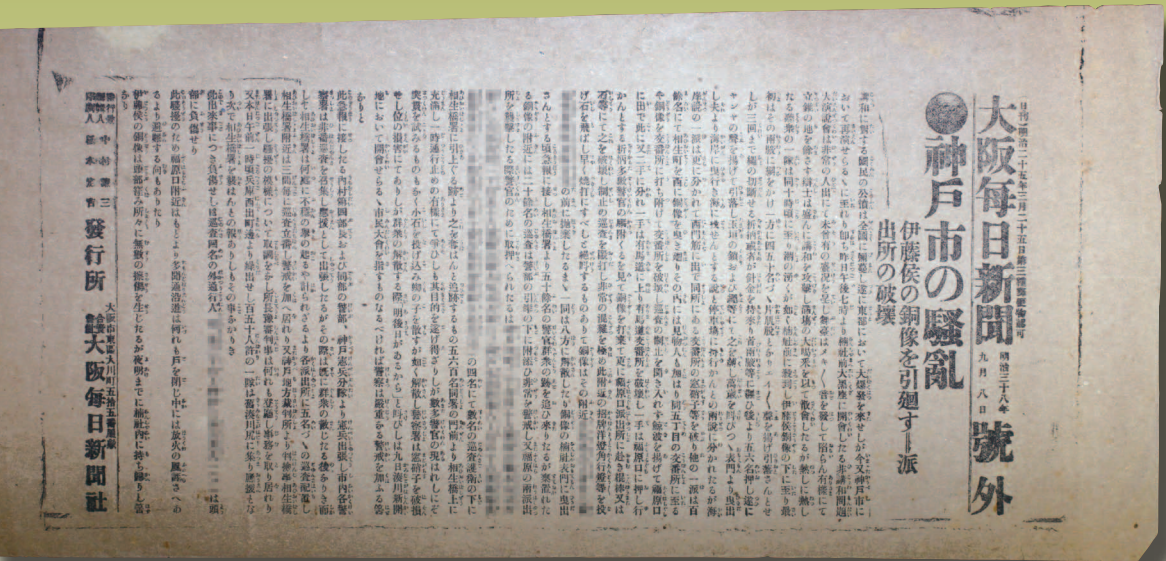
大阪市交通局に勤務しつつ落語家としても活動していたと聞き、変わった人がいたものだと思っていたが、五代目桂（かつか）文枝（ぶんえだ）も同じ交通局に勤務、人間国宝桂米朝（かみちあ）も、民間会社や郵便局に勤務していた時期があるらしい。落語では食べていけなかった、そんな時代だったのかと思うが、定年まで勤めていたのはこの三代目米之助（よしのすけ）だけである。ある意味凄い人。

生まれは一九二八年、大阪の今里。当時は映画館や寄席が多くあり、父親も映画館主。となると、そういった資料を収集し始めたのも頷ける（うなず）か。ただ、大阪郷土史に関する知識も豊富で、雑誌やラジオ番組で大阪庶民史を紹介していたそうだから、只者（ただもの）ではない。

一九九九年に亡くなった後、遺品として残された資料は膨大で多岐に渡り、それらのうち落語関係の書籍や落語会プログラムは、大阪府立上方演芸資料館「ワツハ上方」に、落語に関する一次資料は関係者に、それぞれ引き取られることとなった。そして、落語と直接はかかわらない資料群は、彼がファンだった民博に寄贈したいとのご遺族の希望に沿って、当館の所蔵資料となり今日に至っている。

さて、ここで紹介するのは、桂米之助が収集した明治期の新聞の号外である。東京では収集から漏れがちな大阪の号外は、メディア史研究にとって貴重なもの。他にも、新聞付録、証券や引札など、興味深い資料がある。

余談だが、ワツハ上方からは、鉄砲節河内音頭宗家・鉄砲（てっぽう）光三郎（みつさぶろう）の太鼓をお借りして、音楽展示場に展示してある。使い込まれた太鼓は何を語るか、ご覧あれ。



資料番号 523

日露戦争後に結ばれた、ポーツマス講和条約が日本に不利であると、講和反対の暴動が各地で起きた。1905年9月5日の日比谷焼打事件が有名だが、翌々日に神戸でも暴動が起きたことを、この1905年9月8日付大阪毎日新聞の号外は伝えている。

※文中、個人名と住所の部分にぼかし処理をかけています。



「桂米之助アーカイブ」は、落語家3代目桂米之助氏旧蔵の資料である。アーカイブは、日露戦争の戦況を報道する新聞号外を中心に明治・大正期の在阪新聞の号外・付録等約900点と、米穀商関係資料などから構成されている。